

編集後記

2015年の第1号をお届けする。本年は東日本大震災から4年、阪神淡路大震災から20年の年にあたる。他国に比べとりわけ自然災害が多い我が国においても、特に人々の記憶に深く刻まれている両震災からもうそのような月日が経過したのかと驚くとともに、まだまだ復興途上の地域や方々も多いことへと思いを馳せる。

国外に目を向けると西アフリカでは依然としてエボラ出血熱が猛威を振るっており、再び国内に目を向けると再生医療やITの医療現場における応用など、医療の現場でも目まぐるしい変化が起こりつつある。しかしながらこういう時代だからこそ、静かに過去に目を向けることが大切であることは、歴史に造詣の深い会員諸賢に対しては「釈迦に説法」であろう。

しかし「釈迦に説法」とはいえ、それを具体的に論文・学会口演にすることは骨の折れる仕事である。これに対し、我が医史学会では過去の医史学雑誌を電子データ化しそのダウンロードを可能にしつつある。これは会員諸賢の仕事への大きな助けとなろう。また、本プロジェクトは会員の小林健二先生によるデジタル化作業にその多くを負っており、小林先生には深く感謝したい。

出来るることならば、本プロジェクトが昨今やや頭打ちな本誌への論文の御投稿への助けとなり、医史学のさらなる発展をもたらすものであろうことを願ってやまない。

(松村 紀明)